

Subject : **Japanese**Production of Courseware
e- Content for Post Graduate CoursesPaper No. 02 : **日本語学 (Japanese Linguistics)**Module 16 : **モダリティ (2) (Modality (2))**

ज्ञान-विज्ञान विमुक्तये

**Development Team****Principal Investigator:****Prof. Anita Khanna**

Jawaharlal Nehru University, New Delhi

Paper Coordinator:**Prof. Prashant Pardeshi**

The National Institute for Japanese Language and Linguistics (NINJAL)

Content Writer:**Prof. Emerita Yuriko Sunakawa**

University of Tsukuba

Content Reviewer:**Prof. Hideki Kishimoto**


Kobe University

Japanese

Japanese Linguistics

モダリティ (2) (Modality (2))

Description of Module	
Subject Name	Japanese
Paper Name	日本語学 (Japanese Linguistics)
Module Title	モダリティ (2) (Modality (2))
Module ID	JPN-P02-M16
Quadrant 1	E-Text

 **Pathshala**
पाठशाला
A Gateway to All Post Graduate Courses

Japanese

Japanese Linguistics

モダリティ (2) (Modality (2))

モダリティ (2)

もくてき もくてき つづ き て
目的：このモジュールの**目的**は、「モダリティ (1)」の**続き**として、「**聞き手めあて**のモダリティ」と「**説明のモダリティ**」について**解説**することである。

1. 聞き手めあてのモダリティ

き て
「**聞き手めあてのモダリティ**」とは、話し手が文の**表す内容**をどのように**聞き手**に**伝えよう**としているかを**表す**もので、「**丁寧さのモダリティ**」,**「表現類型のモダリティ**」,**「伝達態度のモダリティ**」に大別できる。

2. 丁寧さのモダリティ

ていねい き て たいぐう ぶん の あらわ
「**丁寧さのモダリティ**」とは、**聞き手**をどのように**待遇**して文を**述べる**かを**表す**モダリティである。

ていねい ふつうたい ていねいたい あらわ ふつうたい き
丁寧さのモダリティは、**普通体**か**丁寧体**のどちらかによって**表される**。**普通体**は**聞き手**が**話し手**と**対等**か**目下**の**関係**にある**場合**や**親しい**関係にある**場合**、**丁寧体**は**聞き手**が**目上**の**関係**にある**場合**や**あまり親しくない**関係にある**場合**に**使う**。また、**同一人物**に

たい ば あい してき ばめん こうてき ばめん はつわじょうきょう ちが ふつうたい
 対する場合でも、私的な場面か公的な場面かなど、発話状況の違いによって普通体と

ていねいたい つか わ
 丁寧体を使い分けられる。

たいへん じかん いそ で ふつうたい
 (1) 大変だ。時間がない。急いで出かけよう。(普通体)

たいへん じかん いそ で ていねいたい
 (2) 大変です。時間がありません。急いで出かけましょう。(丁寧体)

ていねいたい き て じょうきょう つか じゅんすい ひと ごと
 丁寧体は聞き手めあての状況でしか使えないスタイルであるため、純粋な独り言
 つか ぶん きょう しめ
 では使われない。(3)の「*」は、この文が許容できないことを示す。

ひと ごと やまだ
 (3) (独り言) *あれ？あそこにいるのは山田さんですかなあ。

いっぽう ふつうたい き て せい きはく じょうきょう つか ひと
 一方、普通体は、聞き手めあて性が希薄な状況でも使えるために、(4)のように独
 ごと つか
 り言で使うことができる。

ひと ごと やまだ
 (4) (独り言) あれ？あそこにいるのは山田さんかなあ。

そのため、たとえ丁寧体を使わなければならない相手に対する発話であっても、^{ていねいたい} ^{つか} ^{あいて} ^{たい} ^{はつわ} ^{ひと} ^{ごと} 独り言

としてつぶやくときには普通体が使われる。例えば、(5) の「あ！蜂だ！」という発話

は、^{はち} ^み ^{おも} ^{ひと} ^{ごと} ^{はつ} ^{れい} 蜂を見て思わず独り言を発してしまった例である。

(5) 実に見事な景色ですね。あれは山桜じゃないでしょうか。あ！蜂だ！先生、気を

^{はち} ^と つけてください。蜂が飛んでますよ。

3. 表現類型のモダリティ

「表現類型のモダリティ」とは、どのような伝達機能を担うものとして文を聞き手に伝えようとしているかを表すモダリティである。

表現類型のモダリティには、聞き手めあて性の明確なものと明確でないものがある。

前者には「働きかけ」と「問いかけ」がある。

a. 「働きかけ」とは、聞き手に対して、話し手の要求の実現を働きかける機能を持つ

もので、「依頼」、「命令」、「禁止」、「誘いかけ」がある。

(6) こちらにお座りください。 [依頼]

(7) 早く宿題やってしまいなさい。 [命令]

(8) 自分の失敗を人のせいにするな。 [禁止]

(9) この次はぜひ一緒に行きましょう。 [誘いかけ]

b. 「問いかけ」とは、話し手が聞き手に情報や確認を求める機能で、終助詞の「か」

や上昇調のイントネーションなどによって表される。

(10) この電車は大阪に行きますか。

(11) 何時に会いましょうか。

(12) あなたも一緒に行くでしょ？

聞き手めあて性が明確でないものとしては、「述べ立て」と「意志の表出」が挙げられる。

a. 「^の ^た ^{はな} ^て ^も ^{じょうほう} ^{はな} ^て ^{げんしょう} ^{はな} ^て ^{はんだん} ^{ないよう} ^{あらわ} ^{きのう} ^き ^て ^{たい} ^{はつわ} ^{ばあい} ^き ^て ^{でんたつ} ^{いと} ^{ひと} ^{ごと} ^{ばあい} ^き ^て ^{たい} ^{はつわ}」とは、話し手が持っている情報や話し手ががとらえた現象や話し手の判断の内容を表す機能である。聞き手に対する発話の場合もあるが、聞き手への伝達を意図しない独り言の場合もある。(13)は聞き手に対する発話である。

(13) ^{とうじょう} ^{ひこうき} ^{なりたくうこう} ^{とうちやく} ご搭乗のみなさま、ただいまこの飛行機は成田空港に到着いたしました。

^{いっぽう} ^き ^て ^{たい} ^{はつわ} ^{ひと} ^{ごと} ^{ばあい} ^{かのう} 一方、(14)は聞き手に対する発話と独り言のどちらの場合も可能である。

(14) ^{きょう} ^は 今日は晴れるだろう。

b. 「^い ^し ^{ひようしゅつ} ^{はな} ^て ^い ^し ^{しんできたいど} ^{あらわ} ^{きのう}」とは、話し手の意志という心的態度を表す機能である。(15)のように聞き手に対して発話される場合もあるが、(16)のように聞き手への伝達を意図しない独り言の場合もある。

(15) ^{わたし} ^{さき} ^{かえ} それじゃあ、私は先に帰ります。

(16) ^{きょう} ^{すこ} ^{はや} ^ね 今日は少し早めに寝よう。

4. 伝達態度のモダリティ

「伝達態度のモダリティ」とは、話し手が発話状況をどのように認識し、聞き手にどのように示そうとしているのかを表すものである。伝達態度のモダリティは、「よ」「ね」「なあ」のような終助詞や、「もの」「とも」「っけ」「ってば」のような終助詞相当の語によって表される。

これらのモダリティ形式にも、聞き手めあて性が明確なものと明確でないものがある。

聞き手めあて性が明確なものの代表としては、「よ」と「ね」が挙げられる。「よ」は聞き手が知らないと思われることを伝えるとき、「ね」は聞き手に同意や確認を求めたりするときに使う。そのほか、「ぞ」「ぜ」「さ」「わ」などがあるが、これらには男女差や親しさの度合いが大きく関与する。以下の例は男性が使うことが多く、多少乱暴な印象を与えるため、目下か親しい相手にしか使えない。

(17) 早く行こうぜ。

(18) すぐに分かるさ。

聞き手めあて性が明確でないものとしては、「なあ」や「な」が挙げられる。これは独り言で感動や自問の気持ちを表したり、聞き手に対して自分の発言を和らげたりするのに用いる。

(19) 一人でできるかなあ。

(20) (「あのんだれか知ってますか。」という問に対する返事) いや、知らないなあ。

5. 説明のモダリティ

「説明のモダリティ」とは、先行文脈や発話状況と文との関係づけを表すもので、「のだ」や「わけだ」によって担われる。

たとえば、次の (21) は、「熱があるみたいで頭が痛い」ということが、「早退してもいいですか？」という直前の発話に対する理由であるということを表している。なお、(21)の「んです」は、「のです」が話し言葉で用いられるときの形である。

(21) 早退してもいいですか？熱があるみたいで頭が痛いんです。

つぎ ぶん あつ ちやくぜん はつわ しめ と
 次の文は、「暑い」ということが直前の発話で示されたクーラーが止まっているこ
 きけつ あらわ
 との帰結であるということを表している。

(22) クーラーが止まっています。道理で暑いわけですよ。

つぎ ぶん ことば しめ はつわ じょうきょう たい せつめい おこな
 さらに、次の文は、言葉で示されてはいないが発話の状況に対する説明が行われ
 ている。

(23) (割れたカップを見せて) すみません。落としちゃったんです。

いじょう せつめい せんこうぶんみやく はつわじょうきょう かんけい き て
 以上のように、説明のモダリティは、先行文脈や発話状況との関係づけを聞き手に
 しめ つか てん き て どうよう いっぽう
 示すために使われる。その点では聞き手めあてのモダリティと同様であるが、その一方
 つぎ れい はな てじしん かんけい はあく あらわ
 で、次の例のように話し手自身が関係づけを把握したことを表すこともある。このよ
 ばあい じたい ちか
 うな場合は事態めあてのモダリティに近くなる。

(24) (だれもいない部屋を見て) なんだ、みんな帰っちやったんだ。

このような意味で、説明のモダリティは、事態めあてのモダリティと聞き手めあてのモダリティの中間的な存在であると言える。

6. 従属節のモダリティ

聞き手めあてのモダリティは、丁寧さのモダリティを除いて、従属節には現れない。(25) は表現類型のモダリティ、(26) は伝達態度のモダリティの例である。どちらも「のに」や「が」を伴う従属節に用いられているが、これらは許容できない文である。

(25) *夜更かししないで早く寝るのに、寝てくれなかった。

(26) *辛かっただろうねが、よく我慢したねえ。

一方、事態めあてのモダリティは、その多くが逆接を表す「が」節や理由を表す「から」節などの従属節に現れる。ただし、どのような従属節に使えるかは個々のモダリティ形式によって異なる。例えば、「だろう」や「かもしれない」は、「が」節や「から」節に使うことができる。

(27) a. 辛い^{つら}だろう／かもしれないが、我慢^{がまん}してくれ。

b. 夜更かし^{よふ}すると起きられない^おだろう／かもしれないから、早く寝^{はや}よう。

しかし、「のに」節については、「だろう」は使えず、「かもしれない」は使うことができる。

(28) a. *辛い^{つら}だろうのに、よく我慢^{がまん}したなあ。

b. 起きられない^おかもしれないのに、夜更かし^{よふ}した。

7. 丁寧さのモダリティの特異な点

聞き手^きめあて^てのモダリティ^{なか}の中でも、丁寧^{ていねい}さのモダリティ^{なか}形式^{けいしき}は従属^{じゅうぞく}節^{せつ}の中に現^{なか}れるという点^{あらか}で特異^{てん}である。(29a) は「ます」、(30b) は「ました」が従属^{じゅうぞく}節^{せつ}に使われ^{つか}ている例^{れい}である。

(29) a. 滑り^{すべ}ますから気^きをつけてください。

b. 先生^{せんせい}にお会^あいになりましたなら、よろしくお伝^{つた}えください。

また、聞き手めあてのモダリティは、後ろに事態めあてのモダリティ形式を従える
 ことができないが、丁寧さのモダリティは例外的に事態めあてのモダリティ形式を従
 えることができる。例えば、「よ」の後ろに推量を表す「でしょう」をつけた (30a)
 は許容されない文であるが、丁寧さのモダリティに「でしょう」をつけた (30b) の文は
 問題がない。

(30) a. *明日はきっと晴れるよでしょう。

b. 明日はきっと晴れますでしょう。

ただし、(30b) のようなものは例外的で、普通は丁寧さのモダリティを事態めあてのモ
 ダリティの前に使うことは許されない。(31a) と (32b) は許容できない文である。

(31) a. *バスはもうそろそろ着きますはずです。

b. *今日は雨が降りますらしいです。

キーワード :

き て 聞いてい ふうたい ていねいたい き て せい
聞き手めあてのモダリティ 丁寧さのモダリティ 普通体 丁寧体 聞き手めあて性

ひと ごと ひょうげんいけい はたら と の た い し ひょうしゅつ
独り言 表現類型のモダリティ 働きかけ 問いかけ 述べ立て 意志の表出

でんたつた いど しゅうじょし じゅうぞくせつ せつめい
伝達態度のモダリティ 終助詞 従属節 説明のモダリティ

